

令和 6 年度（2024 年度） 第 8 回小原地域会議 会議録

開催日時	令和 6 年 1 2 月 3 日 (火)	開会	閉会
		午後 6 時 30 分	午後 8 時 30 分
会 場	小原支所 第 2 会議室		
出席者	委 員	竹内正美（会長）、白川悠理（副会長）、成瀬友昭、景山卓己、安藤茂則、大林鐘次、増岡正博、加藤元紀、山内明、成瀬啓一、鈴木孝典、濱辺誠一、無州麻美	
欠席者	岡田錬治、板倉正則、田澤由佳、小出透		
次 第	1 開 会 2 あいさつ 3 おばらみらいプランの事業化について 4 次期おいでん・さんそんプラン策定に向けた市民検討委員選出について 5 閉 会		

【内容】

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 おばらみらいプランの事業化について
本日のテーマ：里の駅に必要な小原の「食」

目的：里の駅に持たせる機能として小原の「食」を取り上げたとき、具体的に何ができるか？どんなものを集めたらよいか？といったイメージの解像度を上げるため。

●委員からの意見等

小原には商品として並べるもの（商店も含めて）があると思うが、なぜ里の駅で販売することが必要なのか、障壁となっていることが何かを検討。

- ・パンやスイーツといった商品を扱う店があるが、里の駅で出店となると、生産量を確保することが難しいといった声を聴く。

- ・商品として出してくれる人を探さなければならないが、その商品を保証するしくみを里の駅が持たないと出品までいけない（生産者の責任）。

- ・農作業への関心が高まっている。米などを里の駅で販売することで、作ってみるという意識が芽生える。また、小原の生産者にとっても意欲が沸く。

・安全な食が求められている。無農薬の野菜や自然そのもの（キノコ）を扱うことで、今度は自分で作ることに意識が変わり、その体験できる土地をあっせんできる仕組みを里の駅に持たせる。

・小原の人も利用できる場所にしないと、ただの観光施設になってしまう。これでは定住促進につながらない。

4 次期おいでん・さんそんプラン策定に向けた市民検討委員選出について

→候補者2名

委員会の開催日程、時間、子連れでの参加が可能かなどを確認の上、調整

5 閉 会

■次回日程

第9回定例会 1月7日（火）午後18時30分～20時30分

小原支所2階 第2会議室
